日本植物分類学会ニュースレター

No. 88 Feb. 2023

目　次

○会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
○新評議員あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
○新役員等一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
○諸報告
2023 年度第 22 回日本植物分類学会賞（学会賞・奨励賞）
受賞者の決定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
2023 年度第 17 回日本植物分類学会論文賞の決定・・・・ 5
2022 年度第 1 回メール評議員会 議事抄録・・・・・・・ 6
2023 年度第 1 回メール評議員会 議事抄録・・・・・・・ 6
2022 年度日本植物分類学会講演会の報告・・・・・・・ 7
日本植物分類学会講演会に参加して ・・・・・・・・・・・ 8
○お知らせ
第 22 回千葉大会実行委員会からのお知らせ ・・・・・・・ 9
日本植物分類学会第 22 回
大会公開シンポジウムのご案内・・・・・・・・・・・・・・10
2023 年度総会のお知らせと審議事項 ・・・・・・・・・・11
2022 年度事業報告（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・11
2023 年度事業計画（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・16
『役員等の選出についての細則』の改定案・・・・・・・・・17
○会員消息 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

会長あいさつ

会長　村上　哲明（東京都立大学 牧野標本館）

日本植物分類学会の会長職を 2024 年末まで，もう 2 年間務めさせていただくことになりました。会長選挙で，私を信任していただけたことを大変嬉しく思っています。微力ながら，会長職を全力で務めさせていただく所存です。会員の皆様の変わらぬ学会運営へのご協力，どうかよろしくお願い申し上げます。

さて，先の 2 年間は、新型コロナウイルスの感染拡大のせいで，本学会のほとんど全ての対面のイベントが中止，またはオンラインのみの開催となってしまいました。唯一，感染者数の谷間の時期に対面とオンラインのハイブリットで開催できたのが年末の 12 月に開催される講演会でした。それも，会場を貸して下さった大阪学院大学の林一彦先生と講演会担当の高山浩司先生（京都大・理）の大変なご努力で，なんとか実現できたものでした。

一方で，最近 2 回の年次大会は Zoom や LINC Biz を活用して，特に大きな混乱もなくオンラインで開催することはできました。大学では，これらツールを活用して授業や会議などを行うことが当たり前になっています。さらに，本学会のオンライン大会のお世話を中心的に担当して下さった岩崎貴也先生（お茶の水女子大・理）らが，ノウハウを蓄積・文書化して下さっています。今後は突然，年次大会が対面で開催できなくなっても，短い準備期間でオンライン開催に切り替えられるようになっています。わざわざ大会の開催地まで行かなくても，さらに自室でくつろいだ状態で全ての大会発表を視聴できて，発表が終わった後にも，ゆっくり質疑応答や議論を継続することができるなど，オンラインの大会には，従来の対面の大会には無かった良い点がたくさんあることもわかりました。

ところが，このようになってみると，直接会って，一緒にお酒を飲み，無駄話などもすることが，実は年次大会を含む様々なイベント（講演会，野外観察会なども含む）のとても重要な部分であることが実感できました。また，初めて学会発表をする学生会員が，怖そうな先生達を含む大勢の聴衆の見つめる中で，極度に緊張しながら発表をする経験（多分，一生忘れない思い出になるはずです）がとても貴重だったこともよくわかりました。私の会長としての最初の 2 年間では，オンラインで問題なく年次大会などを開催することに尽力してきましたが，次の 2 年間では，オンラインの利点は残しつつも，様々なイベントを対面開催に戻していくことに尽力したいと考えています。本学会の年次大会や各種イベントのお世話をする側の方々には，逆に大きな負担をおかけすることになると思いますが，ご容赦いただければ幸いです。会員の皆様と直接お目にかかれるのを楽しみにしております。

最後に一つ朗報があります。今年の春に始まる NHK の朝ドラ「らんまん」の主人公モデルは何と，日本の植物分類学の父と呼ばれている牧野富太郎博士に決まり，撮影が始まっています。牧野標本館の責任者である私のところにも，既に大手新聞社やテレビ，雑誌などの取材が殺到し，嬉しい悲鳴を上げているところです。ドラマが盛り上がって，世の中から植物分類学が注目されることを私も期待しています。このようなチャンスを逃すことなく，みんなで力を合わせて日本の植物分類学を盛り上げていきましょう。

新評議員あいさつ

評議員　海老原　淳，片桐　知之，黒沢　高秀，志賀　隆，副島　顕子，高野　温子，仲田　崇志，
西田　佐知子，藤井　伸二，布施　静香，細矢　剛，米倉　浩司

2023 年 1 月から 2 年間この 12 名のメンバーで評議員を務めて参りますので，どうぞよろしくお願いします。学会員どうしが対面で顔をあわせる機会が大幅に少なくなってしまい，学会の行事にも制約が大変多かった過去 3 年間でしたが，今後も会員の皆様が必要とされているサービスが的確に提供されるよう，常時会務への助言等を行っていく所存です。学会の活動に関するご意見・ご要望がございましたら，お近くの評議員までお伝えください。

新役員等一覧（任期：2023 年 1 月 1 日～ 2024 年 12 月 31 日）

庶務幹事　西野　貴子

今期の役員、および、各委員会委員長と委員を下にご報告いたします。

会長	村上　哲明
庶務幹事＊	西野　貴子
会計幹事＊	國府方　吾郎
図書幹事＊	李　忠建
ニュースレター担当幹事＊	大槻　達郎
ホームページ担当幹事＊	佐藤　博俊
編集委員長	布施　静香
英文誌編集長	布施　静香
和文誌編集長	厚井　聡
日本分類学会連合担当委員	黒沢　高秀
自然史学会連合担当委員	朝川　毅守
講演会担当委員	高山　浩司
野外研修会担当委員	鈴木　武

＊会則第 11 条で定める幹事（連続二期まで）

評議員：海老原　淳，片桐　知之，黒沢 高秀，志賀　隆，副島　顕子，高野　温子，仲田　崇志，西田　佐知子，藤井　伸二，布施　静香，細矢　剛，米倉　浩司（五十音順）

監事　：池田　啓，大村　嘉人（2023 年度の総会まで）

委員会：

編集委員会：布施　静香（編集委員長），厚井　聡（和文誌編集長），池田　啓，池田　博，岩崎　貴也，海老原　淳，大村　嘉人，川窪　伸光，黒沢　高秀，高山　浩司，田中　伸幸，田村　実，坪田　博美，内貴　章世，仲田　崇志，永益　英敏，西田　佐知子，西田　治文，藤井　伸二，藤井　紀行，牧　雅之，村上　哲明，米倉　浩司，綿野　泰行，David E. Boufford（アメリカ），Jae-Hong Pak（韓国），Rachun Pooma（タイ），Yong-Ping Yang（中国）

絶滅危惧植物専門第一委員会：藤井　伸二（委員長），東　隆行，海老原　淳，勝山　輝男，加藤　英寿，角野　康郎，川窪　伸光，黒沢　高秀，志賀　隆，芹沢　俊介，高宮　正之，藤田　卓，矢原　徹一，横田　昌嗣，米倉　浩司

絶滅危惧植物専門第二委員会：細矢　剛（委員長），樋口　正信，山口　富美夫，古木　達郎，有川　智己，片桐 知之，北山　太樹，坂山　英俊，菊地　則雄，寺田　竜太，神谷　充伸，細矢　剛，服部　力，吹春　俊光，糟谷　大河，保坂　健太郎，柏谷　博之，宮脇　博巳，竹下　俊治，大村　嘉人

植物データベース専門委員会：大西　亘（委員長），伊藤　元己，海老原　淳，永益　英敏，藤井　伸二，米倉　浩司

学会賞選考委員会：梶田　忠（委員長）

ABS 問題対応委員会：村上　哲明（委員長），伊藤　元己，海老原　淳，永益　英敏，坪田　博美，藤井　伸二，邑田　仁

国際シンポジウム準備委員会：池田　博（委員長）

標本問題対応委員会：田中 伸幸（委員長），秋山 弘之，池田 博，田金 秀一郎，細矢 剛，永益 英敏，遊川 知久

研究・普及推進委員会：黒沢　高秀（委員長），海老原　淳，大西　亘，角野　康郎，志賀　隆，首藤　光太郎，末次　健司，田金　秀一郎，根本　秀一，早川　宗志，藤井　伸二，横川　昌史

諸報告

2023 年度第 22 回日本植物分類学会賞 (学会賞・奨励賞) 受賞者の決定

学会賞選考委員会委員長　瀬戸口 浩彰

本年度の学会賞と奨励賞については 5 名からなる学会賞選考委員会にて，各候補者の研究業績，当学会や社会への貢献などを選考の基準にして協議を行い，基本的に全ての委員の意見が一致するように議論を重ねました。その結果，下記のように学会賞に 1 名，奨励賞に2名の方を選出して村上哲明会長に報告しました。なお，学会賞は例年 2 名の方に贈呈しており，地域の植物相研究や普及啓発活動，保全活動等に功績のある方も選出してきたのですが，今年度においては選出された候補の方から辞退のお申し出があったために 1 名となりました。次年度以降におきましても学会賞選考委員会では学会賞と奨励賞を 2 名ずつ選出する基本方針でおりますので，会員の皆様からのご推薦，ご応募をお待ちしております。

学会賞　・長谷部　光泰氏（基礎生物学研究所教授 ）
「生物学諸分野を統合した陸上植物の形質進化研究」

奨励賞　・髙橋　大樹氏（東北大大学院農学研究科　日本学術振興会特別研究員 PD）
「分子生態学的手法にもとづく東アジア産植物の進化史の解明」

・松崎　令氏（国立環境研究所　高度技能専門員）
「緑藻クロロモナス属を中心とした氷雪藻類の多様性解明」

授賞理由は以下の通りです。

学会賞：長谷部　光泰 氏

長谷部光泰氏は植物分子系統学の第一世代として現生裸子植物，薄嚢シダ類，コケ植物の単系統性と類縁関係を推定し，カエデ属，ドクウツギ属などの分子生物地理学の先駆的研究をされました。その後，植物発生進化学の第一世代として，裸子植物，シダ植物，小葉植物，コケ植物において，ゲノム解析，分子生物学，細胞生物学，発生生物学の技術と知見を統合し，陸上植物の共通祖先の形態推定を行うとともに，どのような遺伝子の変化によって，陸上植物の形態多様性が生み出されたかの概要を明らかにすることに成功しました。また，植物における食虫性の進化機構，食虫植物とオジギソウの速い運動機構と進化，陸上植物の幹細胞化の分子機構と進化についても，ゲノム解読と形質転換法を確立することで新規モデル生物を開拓し，多くの新知見を明らかにしています。さらに，日本学術振興会をはじめとする多くの組織にて，多様性進化研究についての施策助言，実施に寄与されています。その一方で，植物分類学が明らかにしてきた陸上植物の全体像を世間に広く提供するために，自ら辺境の地にまで赴いて，自らの写真と観察に基づく教科書執筆や web ページ公開を行っています。このように，長谷部氏の分類学と本学会への貢献は多大なものであり，学会賞に値するものであります。

奨励賞：髙橋　大樹 氏

髙橋大樹氏はこれまで主にウマノスズクサ科カンアオイ属を対象にして，その系統進化や生態に関する研究を精力的に行われてきました。特に日本，中国，台湾のカンアオイ属を用いた東アジア地域におけるカンアオイ類の多様化機構の解明や，サカワサイシン節の萼裂片の地理的勾配の形成過程の解明に関する研究で成果を挙げています。また近年では，屋久島高山帯の矮小植物群についての研究に取り組んでおり，ヤクシカの採食圧回避のために様々な分類群で並行的に矮小進化したことを分子生態学的手法より明らかにしました。何れの研究でも，野外でのフィールド調査と分子マーカーを用いた集団遺伝学的解析を組み合わせた研究手法を緻密に

展開しています。これらを含む多数の研究成果は国際的な英文誌に発表されており，その業績は日本植物分類学会奨励賞に十分値すると考えます。

奨励賞：松崎　令　氏

松崎令氏は，“氷雪藻類”と呼ばれる残雪や氷河中に生息する微細藻類の種分類学的研究を精力的に進められてきました。特に，林床の残雪などに優占する緑藻クロロモナス属では，国内外の培養株を用いた比較形態解析と分子データに基づいて栄養細胞と無性生殖における種レベルの分類形質を整理し，カルチャーコレクションに保存されている培養株の再同定，並びに複数の新種の記載をされています。また，野外サンプル中に大量にみられる本属の接合子は発芽誘導も分子同定も困難で実体がほとんど分かっていませんでしたが，松崎氏は接合子の詳細な分子解析手法を開発し，複数の接合子の種を明らかにされました。加えて近年では，共同研究者とともに世界各地の雪氷サンプルのアンプリコンシーケンスデータを解析し，全球規模での氷雪藻類の種組成および分布の解明にも取り組まれております。国際的な英文誌に発表された上記の研究成果は，重要な基盤データとして国内外の氷雪藻類の研究者に用いられており，その業績は日本植物分類学会奨励賞に十分値すると考えます。

2023 年度第 17 回日本植物分類学会論文賞の決定

論文賞選考委員会委員長　田村　実

2023 年度第 17 回日本植物分類学会論文賞は，2022 年に出版された英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』73 巻および和文誌『植物地理・分類研究』70 巻に掲載された論文のうち，編集委員および論文賞選考委員から推薦された論文 7 編を論文賞選考委員会において審査し，次の 2 論文に決定しました。

Nakanishi, H. 2022. Seed morphology and dispersibility of orchids in warm temperate Japan. Acta Phytotax. Geobot. 73 (1): 19-33.

選考理由：本論文では，日本の暖温帯に分布するラン科 55 種 2 変種の開花・結実フェノロジーを 4 年間にわたって野外で記録するとともに，それらの極めて小さい種子の形態を観察・計測し，散布能力や生活型（着生，菌従属栄養，夏緑，常緑）との関連性について考察している。分類学的・生態学的な価値に加えて，資料的価値も大変高く，評価できる。

Takahashi, K. T., T. Noguchi, J. Oda, S. Fuse & M. N. Tamura. 2022. Biosystematic studies of *Carex* (Cyperaceae) II. *Carex nasuensis*, a new species from Japan. Acta Phytotax. Geobot. 73 (2): 107-118.

選考理由：本論文は，スゲ属の種の中でも変異に富むコジュズスゲを分類学的に再検討したものである。コジュズスゲは大型の個体を中心に検索表で同定不能な個体を含んでいたが，その個体の実体を，分子系統解析，外部形態観察，走査型電子顕微鏡による微細形態観察を行うことにより解明し，同定不能個体を新種としてコジュズスゲから分離することにより，形態的によくまとまったコジュズスゲの認識に成功している。生植物とさく葉標本での微細形態の見え方の違いを推測ではなく写真で示しながら議論を進めているところも説得力があり，評価できる。

2022 年度第 1 回メール評議員会 議事抄録

庶務幹事　西野貴子

2022 年 12 月 12 日から 12 月 29 日にかけて，2022 年度第 1 回メール評議員会が開催されましたので，議事抄録を報告します。この会議は 2022 年度の事業報告案と会計決算案を評議員の方々に審議していただくものです。なお，2022 年度決算は 12 月末日が会計締切りのため，本メール評議員会の議案中の決算額には概算部分がありましたが，本報告，すなわち 3 月の評議員会と総会にて提案される同議案では，概算部分が確定された決算額に修正されていることをご了承ください。

また，今回のメール評議員会では，選挙権，および被選挙権の公平性を保つため，『役員等の選出についての細則』において選挙権と被選挙権を有する会員を限定する条項の追加についての総会への提案も加えてご審議いただきました。

開催日時：2022 年 12 月 12 日～ 12 月 29 日
開催方法：電子メール媒体を用いた会議
参加者：評議員全員
議長選出：慣例にしたがい村上哲明会長を議長とすることに反対はなかった。

1. 審議事項
第 1 号議案　2022 年度 事業報告案
第 2 号議案　2022 年度 決算案
第 3 号議案『役員等の選出についての細則』変更案

以上の議案は，2023 年度総会議案と重複するため，掲載を省略させていただきます。総会議案（11 ページ）をご参照ください。

2. 審議結果
第 1 号から第 3 号議案は，修正の後，承認多数で可決された。委任状はなかったが，白票扱いがあった。
第 1 号議案 【賛成 12 票，反対 0 票，白票 1 票】
第 2 号議案 【賛成 12 票，反対 0 票，白票 1 票】
第 3 号議案 【賛成 11 票，反対 0 票，白票 2 票】

3．議事録署名人
議事録署名人として海老原 淳氏と布施 静香氏が選出された。

2023 年度第 1 回メール評議員会 議事抄録

庶務幹事　西野 貴子

2023 年事業計画案，および 2023 年予算案の審議のため，2023 年 1 月 27 日から 2 月 8 日にかけて，2023 年度第 1 回メール評議員会を開催しました。以下に議事抄録を報告いたします。

開催日時：2023 年 1 月 27 日～ 2 月 8 日
開催方法：電子メール媒体を用いた会議
参加者：評議員全員
議長選出：慣例にしたがい村上哲明会長を議長とすることに反対はなかった。

1. 審議事項
　第 1 号議案　2023 年度 事業計画案
　第 2 号議案　2023 年度 予算案

　以上の議案は，2023 年度総会議案と重複するため，掲載を省略させていただきます。総会議案（11 ページ以降）をご参照ください。

2. 審議結果
　第 1 号議案は提案どおり承認され，修正はなかった。第 2 号議案については，修正を経て承認多数で可決された。また，委任状はなかったが，白票扱いがあった。

第 1 号議案【賛成 11 票，反対 0 票，白票 2 票】
第 2 号議案【賛成 11 票，反対 0 票，白票 2 票】

3. 議事録署名人
　議事録署名人として高野 温子氏と布施 静香氏が選出された。

2022 年度日本植物分類学会講演会の報告

2022 年度講演会担当委員　高山 浩司

22 回目の日本植物分類学会講演会が，2022 年 12 月 10 日（土）に大阪学院大学ならびに Zoom を用いたオンラインで開催されました。開催に関する情報は，学会メーリングリスト，ホームページ，ニュースレターおよび TAXA・EVOLVE 等のメーリングリストによって行われ，合計 280 名の事前申込がありました。当日は会場参加者が 45 名，Zoom の同時接続者が常に 150 名前後と，全国の多くの方々にご参加いただけました。開催当日も大阪学院大学の事務職員や IT 技術者の方に全面的な協力を頂き，無事にハイブリッド形式で講演会が行われました。

今回は 6 名の先生方にご講演いただきました。
高野 温子（兵庫県立大学 / 兵庫県博）
「植物標本を活かして守る：デジタル化から OCR データ自動抽出，AI による標本自動判定まで」
野田 博士（京都大学）「ヤマノイモ属の系統分類」
伊藤 優（摂南大学）「世界の水草よもやま話」
工藤　洋（京都大学）
「アブラナ科タネツケバナ属の分類・進化・生態：見分け方から最新の研究成果まで」
須貝　杏子（島根大学）
「小笠原諸島における樹木種の進化：エコタイプの分化や集団動態」
加藤　雅啓（国立科学博物館）
「分類学をいかに広げるか―カワゴケソウの調査研究から」

図 1.　講演会の集合写真
（撮影者：ベレス フェルナンド）

ご多忙中にも関わらず，快くご講演を引き受けてくださった演者の皆様，長時間お付き合いくださった参加者の皆様，質問やコメントで講演会を盛り上げてくださった方々，会場の手配をしてくださった大阪学院大学の林一彦先生に厚く御礼申し上げます。

日本植物分類学会講演会に参加して

氏林　恒太（大阪公立大学大学院 理学研究科）

今回の講演会は，植物の知識や研究経験の浅い私にとって自身の知見や視点を広げる貴重な機会となりました。

高野先生は画像からラベルを読み取り出力する技術と，画像から標本の種を判別する技術について話されました。画像から種判別する際には，AI にあらかじめ学習させてから画像を読み込ませますが，AI に読み込ませる画像は人間が判別困難な低解像度画像であることに驚きが隠せませんでした。私たちは検索表を片手に，植物の細かな形質を頼りに種を同定するのに対し，AI は何らかの因子を頼りに同定を行います。さらに，人間と同じように誤った種名を導き出します。AI と人間とは違った視点を持つものを使用することで，効率よく標本の誤同定や混合物を見つけることができれば，実物をありのままに残す自然史標本の価値がさらに高まると感じました。

野田先生はヤマノイモ属の分子系統と分類について話されました。東アジアや東南アジアのヤマノイモ属では系統関係が不明です。東アジア，東南アジアを含む世界のヤマノイモ属を対象にした分子系統樹では節ごとに分かれ，節ごとに形態の違いが多く見られたことに感激いたしました。日本産ヤマノイモ属の分類学的諸問題についての話では，葉緑体 DNA シーケンスと核 DNA シーケンスの結果が綺麗に一致していたことに関心を持ちました。今回の研究の中で，日本固有の種とされていたものが蓋を開けてみると他の国でも見られる種であったことを聞いて，改めて分子系統解析を用いた分類学の面白さを実感いたしました。

最後になりましたが，ご講演された先生の皆様，そして講演会を開催下さった皆様，ありがとうございました。

小嶋　健太（ 京都大学大学院 理学研究科 ）

植物分類学会の講演会は初参加でしたが，非常に楽しい時間を過ごさせていただきました。

伊藤先生は広域分布する水草に関する様々な話をしてくださいました。これまで少数の種のみ認識されていたカワツルモ科が実は多様な系統を含んでいることや，イトクズモ亜科に関してオセアニアに分布する *Lepilaena* とユーラシアに分布する *Althenia* は同じ属とすることが妥当であることを，分子系統学的な手法により突き止めていく様は，まさにこの分野の醍醐味であると感じました。 また研究内容だけでなく，研究スタートからヨーロッパ時代などを経た先生の研究者としての道のりをベースに話を進めてくださったのも聞いていて参考になりました。 様々な分類群に興味を持つこと，これまでの論文では何が調べられていなかったのかを精査する重要性を実感しました。

工藤先生は日本に分布するタネツケバナ属の分類方法および多様性について興味深い話をしてくださいました。 低温になるとミチタネツケバナのおしべが増加しやすくなるという事実は衝撃的で，植物の繁殖戦略の奥深さを感じました。 またミチタネツケバナと異なり水田で生育するタネツケバナは水中環境を経験することが発芽の引き金になるという話は，稲作という人間活動が生物の進化に影響したのではないかと想起しました。 精緻なフィールド調査と分子生態学的な解析を駆使して多面的に植物を捉え，その生態・進化を明らかにしようとするアプローチには，自分の研究にとっても大変参考になりました。

様々なテーマの興味深いお話をしてくださった講演者の皆様，そして講演会を企画してくださった皆様に心よりお礼申し上げます。

増田　和俊（京都大学大学院 人間・環境学研究科）

2022 年度日本植物分類学会講演会にオンラインで参加させて頂きました。様々な分野でご活躍される講演者の皆様がご自身の研究を分かりやすくお話して下さり，大変勉強になりました。

須貝先生は小笠原諸島内で多様な環境に進出した樹木の進化についてお話頂きました。ムラサキシキブ属のような属島間×生育環境間で複雑化した分化の様相を，遺伝データと生態データの両方を示して丁寧に説明して下さり，最後まで容易に理解を進めることが出来ました。同じ小笠原の樹木でも，遺伝的分化の程度と形態の違いが対応している分類群と対応しない分類群がいるのはとても興味深かったです。

加藤先生は分類学をいかに広げるかをテーマにカワゴケソウ科のご研究についてお話頂きました。30 年以上にわたる国内外での野外調査を基にした分類研究に始まり，激流環境への適応進化と種の多様化について発生学や遺伝学的な手法から検証した最近の研究までご紹介して下さり，改めてカワゴケソウ科の「面白さ」を認識することが出来ました。

最後にご講演頂いた皆様と講演会の開催に携わった全ての関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

図 2. 高野先生のご講演（撮影者：高山 浩司）

図 3. 伊藤先生のご講演
（撮影者：ベレス フェルナンド）

お知らせ

日本植物分類学会第 22 回千葉大会実行委員会からのお知らせ

第22回大会 大会会長 綿野 泰行 実行委員長 朝川 毅守

・開催形態について

最新情報については大会 WEB ページ（https://jsps22.e-jsps.com/）を参照して下さい。

〇ポスター発表：ZOOM および LINC biz によるオンライン発表

LINC biz（ https://getlincbiz.jp/ ）を用いて，オンライン上でのポスターのアップロード・閲覧・チャット機能を用いた質疑応答を行います。発表者の方には事前に LINC Biz の招待を行いますので，大会開始前日の2月28日（火）までにアップロードをお願いします。3月1日（水）の発表コアタイムには ZOOM のブレイクアウトルーム機能を用いたオンライン発表を予定していますので，当日は各発表に割り振られたルームにてポスターの説明と質疑応答をお願いします。また LINC biz は会期中および大会終了後の3月14日（火）まで稼働しますので，積極的にご活用ください。

〇口頭発表：千葉大学＋ ZOOM

口頭発表は，事前に受付にファイルを預け，会場に用意したWindows PCで行なってもらいます。**発表に用いるファイルは出来る限りPDF**で用意していただけるようお願いします。ZOOMミーティングで配信しますが，リモートでの発表は出来ません。

〇総会：千葉大学＋ ZOOM
評決はオンライン参加が可能です。ZOOM ミーティングで挙手をしていただき，対面会場の表と合計します。
〇授賞式・受賞講演・公開シンポジウム：千葉大学＋ ZOOM
授賞式・受賞講演は ZOOM ミーティング，公開シンポジウムは ZOOM ウェビナーで配信します。授賞式は WEB カメラを用いて会場舞台を撮影して配信となるので，解像度が悪いことが予想されますが，ご容赦下さい。

〇当日参加
1月27日の事前参加申込み期日以降は，当日に千葉大学けやき会館の受付で参加費を支払っていただく事で参加いただけます。当日参加では LINC biz のアカウント発行はされませんので，オンラインポスターの閲覧は出来ません。参加費は以下の表に示しました。当日参加での懇親会申込みについては，コロナ対策下での会場収容人数によって，場合によっては人数制限を行う可能性があります。ご了承下さい。

	一般	大学院生	学部生
大会参加	5,500 円	3,500 円	無料
懇親会	8,000 円	5,000 円	5,000 円

〇昼食について
本大会ではお弁当の提供はありません。3月3日（金）は，千葉大学生協のフードコートが利用できます。4日（土）・5日（日）については西千葉キャンパス周辺の飲食店・コンビニをご利用いただくようお願いします。持参したお弁当は，指定された部屋（休憩室 1；レセプションホール）で，召し上がっていただけるようお願いします。

・日本植物分類学会第 22 回大会公開シンポジウムのご案内

大会最終日（3月5日）に，以下のとおり公開シンポジウムを開催いたしますので，奮ってご参加ください。非会員の方も無料でご参加いただけますので，関係の方々にもぜひご周知をよろしくお願いいたします

〇開催趣旨
千葉県の南部にはマテバシイの純林が広く広がっていますが，コロナ禍の中，大規模なナラ枯れがおこり大変驚かされました。このナラ枯れほど目にはつきませんが，現在身近な自然に大きな変化がおきつつあります。海に目を向けると大型の海藻が減少する磯焼けが進みつつあり，陸域や淡水域においては，様々な外来種の侵入と拡大により在来種に大きな影響を与えています。本シンポジウムでは「今身近な自然に迫る危機」と題して，千葉県における外来種，磯焼け，およびナラ枯れの現状と，市民による外来種対策の事例を紹介し，我々が今やるべき事・できる事は何かについて考える機会としたいと思います。

〇日時・場所
2023 年 3 月 5 日（日）14：00 ～ 17：00
大会と同じく千葉大学けやき会館大ホールで行われます。ZOOM ウェビナーにて配信もいたします。

〇千葉大学けやき会館現地参加
オンサイトで参加される方は，受付で記名下さるだけで大丈夫です。

〇オンライン参加
オンラインで参加される方はシンポジウム WEB ページ（https://jsps22.e-jsps.com/symposium/）の参加申込フォームよりお申込み下さい。第 22 回大会の事前参加申込みをされた方も，別途申込みが必要で

すのでご注意下さい。
申込締切りはシンポジウム前日 2023 年3月 4 日（土）の正午です。締め切り後，電子メールの一斉送信で，シンポジウムへの参加用 Zoom ミーティング ID とパスワードをお知らせいたします。

〇プログラム
タイトル：「今身近な自然に迫る危機」

14：00 ～ 14：05	開会挨拶・趣旨説明
14：05 ～ 14：25	小野　知樹（千葉県生物多様性センター） 千葉県における野生生物の現状－自然保護行政の現場から―
14：25 ～ 14：45	林　紀男（千葉県立中央博物館） 千葉県における侵略的外来水生植物繁茂拡大の足跡
14：45 ～ 15：05	小倉　久子（美しい手賀沼を愛する市民の連合会） 千葉県手賀沼における侵略的外来水生水草の駆除活動
15：05 ～ 15：30	小林　洋生（安房生物愛好会） 千葉県南部に発生したナルトサワギクの駆除について
15：30 ～ 15：35	休憩
15：35 ～ 15：55	山川　央（かずさ DNA 研究所） 房総半島のサル交雑問題
15：55 ～ 16：15	小宮　朋之（千葉県水産総合研究センター） 千葉県沿岸の磯焼けの現状
16：15 ～ 16：35	尾崎　煙雄（千葉県立中央博物館） 千葉県で発生したナラ枯れについて
16：35 ～ 17：00	質疑応答・総合討論
17:00	閉会

2023 年度総会のお知らせと審議事項

庶務幹事　西野　貴子

来たる 3 月 4 日（土）の総会にて，下記の議案が審議されます。今回の総会は，第 22 回大会会場の千葉大学での現地と，集会等のウェブ開催システム（zoom）をもちいてのオンラインでの同時開催となります。ご参加が難しい場合には，電子メール，ファックス，もしくは郵送にて，次の庶務幹事宛てにご意見等を事前にお寄せください。

庶務幹事連絡先　西野　貴子
jimu@e-jsps.com、Fax：072-254-9932（西野宛をご明記ください）
〒 599-8531 堺市中区学園町 1-2　大阪公立大学 大学院理学研究科 C10 棟
第 1 号議案　2022 年度事業報告案（11 ページ参照）、2022 年度決算案（14 ページ参照）
第 2 号議案　2023 年度事業計画案（16 ページ参照）、2023 年度予算案（18 ページ参照）
第 3 号議案『役員等の選出についての細則』についての第1条改定案（1 7ページ参照）

・2022 年度事業報告案

（1）集会等の開催

・学術集会，講演会，研修会
年次学術集会（日本植物分類学会 第 21 回神奈川大会：3 月3日（木）～ 3 月6日（日）オンライン）を

開催した。横須賀市文化会館にての現地開催を予定していたが，神奈川県を含む都道府県の約 7 割が「新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置」の対象となったことを受け，全面オンライン開催に切り換えた。
2022 年度講演会を開催した（12 月 10 日（土）：現地開催と zoom をもちいたオンラインを同時併用）。
2022 年度野外研修会は，富山県立中央植物園の中田政司氏にお世話いただき，10 月前半に白山の有峰にて開催予定だったが，新型コロナウイルスの急激な拡大のため延期した。

・総会，評議員会
年次総会を 3 月 5 日（土）に zoom にて開催した（ニュースレター 85 号にて報告）。
評議員会を 1 回，zoom をもちいたオンラインにより開催した（2 月 23 日（水祝），ニュースレター 85 号にて報告）。
メール評議員会を 1 回，開催した（12 月，ニュースレター 88 号にて報告）。

（2）出版物の刊行

・学会誌の発行
英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第 73 巻 1 ～ 3 号（計 3 冊）を発行した。
和文誌『植物地理・分類研究（The Journal of Phytogeography and Taxonomy）』第 70 巻 1 ～ 2 号（計 2 冊）を発行した。

・ニュースレター
『日本植物分類学会ニュースレター』を 84 ～ 87 号（計 4 号）を発行した。

（3）委員会活動
以下の委員会を組織し，目的に沿って活動を行なった。
・絶滅危惧植物専門第一委員会（藤井 伸二 委員長）
環境省第 5 次レッドリスト改訂に向け，判定作業を行うとともに原稿作成を進めた。
・絶滅危惧植物専門第二委員会（細矢 剛 委員長）

・植物データベース専門委員会（大西 亘 委員長）
国内の植物分類学系学術誌の情報ならびに，植物分類学関連の web データベースの情報整理を進めた。これまでに整理したそれらの情報の公開準備を行った。

・学会賞選考委員会（瀬戸口 浩彰 委員長）
2022 年度第 21 回日本植物分類学会論文賞の受賞者を決定し，ニュースレター 84 号で報告した。

・論文賞選考委員会 (田村 実 委員長)
2022 年度日本植物分類学会論文賞の受賞者を決定し，ニュースレター 84 号で報告した。

・大会発表賞選考委員会（海老原 淳 委員長）
2022 年度日本植物分類学会大会発表賞の受賞者を決定し，ニュースレター 85 号で報告した。

・ABS 問題対応委員会（村上 哲明 委員長）
委員会全体としての活動は特に行わなかったが，委員長の村上が分担者の一人になっている文科省からの ABS 対応支援事業の予算を用いて本学会員の ABS 対応への支援を実施した。一方で，委員長の村上も検討委員を務める環境省の「ABS 指針フォローアップ検討会」において，生物分類学などの基礎科学分野にとっては，日本の提供国措置（日本が野生生物について主権を主張すること）はこれまで通り必要ないこと，海

外の ABS 法が日本国内で遵守されていることの監視についても，現在の ABS 指針のままで良い（監視をより厳しくする必要はない）と主張してきた。そして検討会での議論の結果，現在の ABS 指針のままで様子を見ることになった。まもなく，検討会の最終報告書が公開される予定である。というわけで，海外の共同研究者に日本に生育する野生植物種のサンプルを送付する際に，特に環境省から事前に許可（PIC）を取得してあげたり，環境省に報告をしたりする必要は少なくとも当面，無いことを報告させていただきたい。一方，生物多様性条約の締約国会議（COP）で現在，問題になっているのは野生生物由来の塩基配列情報（DSI）も ABS の対象とするかどうかである。DSI も ABS の対象となれば，我々，基礎生物学分野の研究者が DNA データベースの配列情報を使う際にも使用料を支払う必要が出てくる等が予想される。DSI については直近の COP15（カナダ・モントリオール）でも議論が全くまとまらず，先が全く見通せない状況である。

・国際シンポジウム準備委員会（池田 博 委員長）
韓国，中国側と協議し，日程を決定した（2023 年 10 月 28 日～ 10 月 30 日）。さらに，会場（大阪公立大学 田中記念館）での現地開催とオンライン配信を同時併用したハイブリッド形式で開催することを決定した。また，「第 10 回 東アジア植物多様性・保全シンポジウム」実行委員会を組織し，具体的な準備を進めた。
加えて，科研費 研究成果公開促進費の研究成果公開発表（C）への申請を行った。

・標本問題対応委員会（田中 伸幸 委員長）
国内の博物館や植物園のワシントン条約特定科学施設への登録を推進するため届出要件の見直しについて，経済産業省の担当部局と引き続き協議を行った。農林水産省からの輸入禁止品に対する厳格化措置について会員へ周知するとともに，農林水産省植物防疫課と協議を行い，海外のハーバリウムからの標本の場合は，廃棄前に確認をしていただくよう特段の配慮を要請した。

・研究・普及推進委員会（黒沢 高秀 委員長）
各委員が命名法やタイプに関わる研究相談や問い合わせへの対応，学校標本の状況調査・収集・研究，地方の植物研究の支援や地域の研究者との連携などに取り組んだ。各委員が行っている活動を整理し，委員会全体としての活動を標本，標本レスキュー，図書，命名・タイプに分け，それぞれにチームを作り対応することにし，準備を行っている。

（4）表彰
・日本植物分類学会賞（学会賞・奨励賞）の受賞者を決定し（ニュースレター 83 号で報告），授与を行った。
・日本植物分類学会論文賞の受賞者を決定し（ニュースレター 84 号で報告），授与を行った。
・日本植物分類学会大会発表賞の受賞者を決定し（ニュースレター 85 号で報告），授与を行った。

（5）国内外の関係学術団体との連携・協力
・国内学会連合等への参加・連携を行った：日本学術会議，自然史学会連合，日本分類学会連合。
・The Korean Society of Plant Taxonomists（KSPT），および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China（BSC）と連携した。

（6）その他
・学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行った。
・当年度発行の『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』と『植物地理・分類研究（The Journal of Phytogeography and Taxonomy）』の論文 PDF を J-STAGE で公開した。

編集室より

今号よりニュースレター担当幹事となりました。紙面のレイアウトに四苦八苦しながら完成させましたが，少々見にくいところがあるかもしれません。号を重ねるにつれて，紙面が読みやすくなるように工夫していきます。よろしくお願いいたします。（ニュースレター担当幹事　大槻　達郎）

2022 年度　一般会計　決算（案）（2022.12.31 現在）

収入の部	単価	数	予算	決算	予算との差異	
会費						
通常（一般）	7,000	741	5,187,000	5,994,760	807,760	注 1
通常（学生/海外）	3,000	100	300,000	205,000	△ 95,000	
団体会員	8,000	21	168,000	144,000	△ 24,000	
自動振替手数料	132	143	18,876	18,216	△ 660	
APG カラーチャージ	18,000	32	576,000	647,811	71,811	注 2
バックナンバー販売			81,500	32,250	△ 49,250	
著作権使用料			100,000	255,352	155,352	注 3
利息			50	42	△ 8	
雑収入			0	17,000	17,000	注 4
合計			6,431,426	7,314,431	883,005	

支出の部	単価	数	予算	決算	予算との差異	
大会補助費			100,000	100,000	0	
講演会補助費			70,000	32,610	△ 37,390	
出版物印刷費						
APG vol.73(1,2,3)	930,000	3	2,790,000	2,971,667	181,667	注 2
植物地理・分類研究 vol.70 (1,2)	700,000	2	1,400,000	1,484,197	84,197	
ニュースレター No.84～87	55,000	4	220,000	177,100	△ 42,900	
学会誌編集補助費			280,000	268,929	△ 11,071	
英文校閲費			50,000	50,000	0	
出版物送料						
APG 送料	110,000	3	330,000	339,957	9,957	
和文誌送料	110,000	2	220,000	223,880	3,880	
NL 送料	90,000	2	180,000	169,664	△ 10,336	
会議費			0	0	0	
学会賞表彰経費			47,000	43,090	△ 3,910	
自然史学会連合分担金			0	0	0	注 5
分類学会連合分担金			10,000	10,000	0	
事務局管理費						
消耗品費			20,000	19,967	△ 33	
交通費			50,000	0	△ 50,000	
封筒等印刷費			0	271,810	271,810	注 6
通信費（小包手数料を含む）			50,000	56,485	6,485	
手数料・その他			15,000	5,826	△ 9,174	
集金代行基本料金/資金振込手数料			4,070	3,770	△ 300	
集金代行振替手数料	132	143	18,876	18,912	36	
レンタルサーバー使用料			26,400	28,050	1,650	
国際シンポジウム積立金			200,000	200,000	0	
予備費			100,000	48,906	△ 51,094	注 7
合計			6,181,346	6,524,820	343,474	

単年度収支	250,080	789,611	539,531
前年度からの繰越金	6,044,853	6,044,853	0
次年度への繰越金	6,294,933	6,834,464	539,531

注 1:2022 年度以前の未納分を多く含むため。
注 2:カラー印刷が増加したため。
注 3:2021 年度分が 2022 年度に振り込まれたため。
注 4:寄附 17,000 円。
注 5:2022 年度の徴収がなかったため。
注 6:2023・2024 年度分の封筒を作成したため。
注 7:選挙にかかった費用。

2022 年度　特別会計［絶滅危惧種調査］　決算（案）（単位：円）　（2022. 12. 31 現在）

収入の部	予算	決算	予算との差異	
前年度繰越金	45, 976	45, 976	0	
レッドリスト改訂のための解析委託費（2022 年分）	1, 800, 000	1, 800, 000	0	注 1
合計	1, 845, 976	1, 845, 976	0	

支出の部	予算	決算	予算との差異	
レッドリスト改訂のための事務委託費・解析費（2022 年分）	1, 845, 976	0	△ 1, 845, 976	
次年度への繰越金（2023 年分）	0	1, 845, 976	1, 845, 976	注 2
合計	1, 845, 976	1, 845, 976	0	

注 1:2022 年度（環境省の会計年度；2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）委託費。
注 2:環境省の会計年度内（2023 年 3 月 31 日まで）に支出予定。

2022 年度　特別会計［国際シンポジウム］　決算（案）（単位：円）　（2022. 12. 31 現在）

収入の部	予算	決算	予算との差異	
前年度繰越金	800, 000	800, 000	0	
国際シンポジウム積立金	200, 000	200, 000	0	注 1
合計	1, 000, 000	1, 000, 000	0	

支出の部	予算	決算	予算との差異	
国際シンポジウム準備金	0	0	0	注 2
国際シンポジウム若手派遣	0	0	0	注 3
2021 年度プログラムの郵送料	22, 200	22, 200	0	注 4
2021 年度ポスター賞記念品の郵送料	3, 000	2, 100	△ 900	注 4
次年度への繰越金	974, 800	975, 700	900	
合計	1, 000, 000	1, 000, 000	0	

注 1:2023 年の開催に備えての積立金。一般会計より移換。
注 2:日本でのシンポジウムの開催がなかったため。
注 3:韓国でのシンポジウムがオンライン開催だったため。
注 4:韓国のシンポジウム事務局より国際シンポジウム委員会に国内該当者への郵送依頼があったため。

2022 年度　特別会計［命名規約］　決算（案）（単位：円）　（2022. 12. 31 現在）

収入の部	予算	決算	予算との差異
前年度繰越金	617, 609	617, 609	0
一般会計より移換	0	0	0
合計	617, 609	617, 609	0

支出の部	予算	決算	予算との差異	
次年度への繰越金	617, 609	617, 609	0	注 1
合計	617, 609	617, 609	0	

注 1:該当する支出がなかったため。

2022 年度　特別会計［顕彰事業］　決算（案）（単位：円）　（2022. 12. 31 現在）

収入の部	予算	決算	予算との差異
前年度繰越金	385, 924	385, 924	0
一般会計より移換	0	0	0
合計	385, 924	385, 924	0

支出の部	予算	決算	予算との差異	
次年度への繰越金	385, 924	385, 924	0	注 1
合計	385, 924	385, 924	0	

注 1:該当する支出がなかったため。

・2023 年度事業計画案

（1）集会等の開催
・学術集会，講演会，研修会
年次学術集会（日本植物分類学会第 22 回大会：3 月 1 日～ 3 月 5 日、千葉）を開催する。
日中韓シンポジウム「第 10 回 東アジア植物多様性・保全シンポジウム」（10 月 28 日～ 10 月 30 日，大阪）を開催する。
2023 年度講演会を開催する。
2023 年度野外研修会を開催する。
・総会，評議員会
評議員会を開催する（3 月 2 日）。
年次総会を年次学術集会に合わせて開催する（3 月 4 日）。

（2）出版物の刊行
・学会誌の発行
英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第 74 巻 1 ～ 3 号（計 3 冊）を発行する。
和文誌『植物地理・分類研究（The Journal of Phytogeography and Taxonomy）』第 71 巻 1 ～ 2 号（計 2 冊）を発行する。
・ニュースレター
『日本植物分類学会ニュースレター』88 ～ 91 号（計 4 冊）を発行する。

（3）委員会活動
以下の委員会を組織し，目的に沿って活動する。
絶滅危惧植物専門第一委員会
環境省第5次レッドリスト改訂の原稿作成を進める。
絶滅危惧植物専門第二委員会
植物データベース専門委員会
植物分類学関連の web データベースの情報整理を進める。web 公開情報の更新を適宜実施する。
学会賞選考委員会
論文賞選考委員会
大会発表賞選考委員会
ABS 問題対応委員会
文科省から予算をもらって実施している分類学・生態学分野の研究者への ABS 対応支援事業は，来年度も継続される見込みである。この事業の分担者になっている委員長の村上を中心に，本学会員向けの ABS 対応支援も継続する予定である。DSI 問題の状況については情報収集を行い，会員に発信していく予定である。
国際シンポジウム準備委員会
「第 10 回 東アジア植物多様性・保全シンポジウム」を，韓国・中国との共催により 2023 年 10 月 28 日～ 10 月 30 日の日程で行う。大阪公立大学 田中記念館を発表会場とし，対面とオンライン配信とのハイブリッド形式で開催する。

標本問題対応委員会
ワシントン条約特定科学施設への登録を推進するため，特に輸出入実績の要件の撤廃あるいは緩和について引き続き協議を行う。輸入禁止品に対する厳格化措置ついて，標本が廃棄されることのないようその方策について引き続き協議を行う。また，この措置により生じた標本に関する問題の事例の収集を行う。
研究・普及推進委員会
2022 年度に引き続き，幹事会や他の委員会等と連携しながら，植物分類学の研究の推進，一般への普及，

地域植物研究会の問題・課題や連携に取り組んでゆく。委員会内に標本，標本レスキュー，図書，命名・タイプに関するチームを立ち上げ，活動を開始する。

（4）表彰
・日本植物分類学会賞（学会賞・奨励賞）の授与を行う。
・日本植物分類学会論文賞の授与を行う。
・日本植物分類学会大会発表賞の授与を行う。

（5）国内外の関係学術団体との連携・協力
・国内学会連合等への参加・連携を行う：日本学術会議，自然史学会連合，日本分類学会連合など。
・The Korean Society of Plant Taxonomists（KSPT），および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China（BSC）等と連携、協力を行う。

（6）その他
・学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行う。
・当年度発行の『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』と『植物地理・分類研究』の論文 PDF を J-STAGE で公開する。
・植物分類学関連情報（学術集会，研究動向，出版物，公募）を収集し，ニュースレター，ホームページ，メールニュース等で提供する。
・学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行う。

・『役員等の選出についての細則』についての第１条改定案

【提案理由】
会長、および評議員の選出が行われた 2022 年度の選挙において、選挙管理委員会から、選挙権、および被選挙権を有する会員の入会期限を定めることができないとの報告があった。公平性を期する選挙のためには、『役員等の選出についての細則』にて定める必要があると考え、以下のような第 1 条第 3 項を追加する改定を提案する。
なお、会員のうち賛助会員および団体会員には、『会員の権利と会費についての細則』の定めにより選挙権・被選挙権がないため、「会則又は細則に定めがある場合を除き、」との文言を以下のように第 3 項に加えている。

《現行》
第 1 条
本会役員等の選出は、この細則によるものとする。
2　会長、評議員の選出にあたって、会長は選挙管理委員長および委員若干名を指名する。

《改訂案》
第 1 条
本会役員等の選出は、この細則によるものとする。
2　会長、評議員の選出にあたって、会長は選挙管理委員長および委員若干名を指名する。
3　会則又は細則に定めがある場合を除き、選挙を行う年の 4 月 1 日時点での全会員が選挙権及び被選挙権を有する。

2023 年度　一般会計　予算（案）

収入の部	単価	数	予算	前年度予算との差異	
会費					
通常（一般）	7,000	741	5,187,000	0	
通常（学生/海外）	3,000	100	300,000	0	
団体会員	8,000	22	176,000	8,000	注 1
自動振替手数料	132	143	18,876	0	
APG カラーチャージ	18,000	32	576,000	0	
バックナンバー販売			40,000	△ 41,500	注 2
著作権使用料			120,000	20,000	
利息			50	0	
雑収入			0	0	
合計			6,417,926	△ 13,500	

支出の部					
大会補助費			100,000	0	
講演会補助費			70,000	0	
出版物印刷費				0	
APG vol. 74(1, 2, 3)	960,000	3	2,880,000	90,000	注 3
植物地理・分類研究 vol. 71 (1, 2)	720,000	2	1,440,000	40,000	注 4
ニュースレター No. 88～91	55,000	4	220,000	0	
学会誌編集補助費			280,000	0	
英文校閲費			50,000	0	
出版物送料				0	
APG 送料	110,000	3	330,000	0	
和文誌送料	110,000	2	220,000	0	
NL 送料	90,000	2	180,000	0	注 5
会議費			0	0	
学会賞表彰経費			97,000	50,000	注 6
自然史学会連合負担金			20,000	20,000	注 7
分類学会連合分担金			10,000	0	
事務局管理費					
消耗品費			20,000	0	
交通費			20,000	△ 30,000	注 8
封筒等印刷費			0	0	
通信費（小包手数料を含む）			60,000	10,000	注 9
手数料・その他			15,000	0	
集金代行基本料金/資金振込手数料			5,762	1,692	注 10
集金代行振替手数料	132	143	18,876	0	
レンタルサーバー使用料			28,050	1,650	注 10
国際シンポジウム積立金			200,000	0	注 11
予備費			100,000	0	
合計			6,364,688	183,342	

単年度収支	53,238	△ 196,842
前年度からの繰越金	6,834,464	789,611
次年度への繰越金	6,887,702	592,769

注 1:会員数変動のため。
注 2:バックナンバー販売数変動のため。
注 3:カラー印刷増加、物価高騰に伴う増額。
注 4:物価高騰に伴う増額。
注 5:学会誌との同時発送を年 2 回行う。
注 6:学会賞受賞者の交通費を含む。
注 7:2022 年度は徴収がなかったため。
注 8:オンライン会議等で補えるため。
注 9:書面でのやり取りが増えたため。
注 10:料金改定のため。
注 11:2023 年の開催に備えての積立金。特別会計へ移換。

2023 年度　特別会計［絶滅危惧種調査］予算（案）（単位：円）

収入の部	予算	前年度予算との差異	
前年度繰越金	1, 845, 976	1, 800, 000	注 1
レッドリスト改訂のための原稿費（2023 年分）	1, 800, 000	0	注 2
合計	3, 645, 976	1, 800, 000	

支出の部	予算	前年度予算との差異	
レッドリスト改訂のための事務委託費・原稿編集費（2023 年分）	1, 845, 976	0	注 3
次年度への繰越金（2024 年分）	1, 800, 000	1, 800, 000	注 4
合計	3, 645, 976	1, 800, 000	

注 1:2022 年度（環境省の会計年度；2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）委託費による繰越金。
注 2:2023 年度（環境省の会計年度；2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）委託費。
注 3:環境省の会計年度内（2023 年 3 月 31 日まで）に支出予定。
注 4:環境省の会計年度内（2024 年 3 月 31 日まで）に支出予定

2023 年度　特別会計［国際シンポジウム］予算（案）（単位：円）

収入の部		予算	前年度予算との差異	
前年度繰越金		975, 700	175, 700	
国際シンポジウム積立金		200, 000	0	注 1
合計		1, 175, 700	175, 700	

支出の部	単価	数	予算	前年度予算との差異	
国際シンポジウム開催費	1, 175, 700	1	1, 175, 700	1, 175, 700	
国際シンポジウム若手派遣	0		0	0	注 2
2021 年度プログラムの郵送料	0		0	△ 22, 200	注 3
2021 年度ポスター賞記念品の郵送料	0		0	△ 3, 000	注 3
次年度への繰越金	0		0	△ 974, 800	
合計			1, 175, 700	175, 700	

注 1:2023 年の日本での開催に備えての積立金。一般会計より移換。
注 2:日本での開催のため。
注 3:2022 年度との差異計算のため記入。

2023 年度　特別会計［命名規約］予算（案）（単位：円）

収入の部	予算	前年度予算との差異
前年度繰越金	617, 609	0
合計	617, 609	0

支出の部	予算	前年度予算との差異	
次年度への繰越金	617, 609	0	注 1
合計	617, 609	0	

注 1:該当する支出がないため。

2023 年度　特別会計［顕彰事業］予算（案）（単位：円）

収入の部	予算	前年度予算との差異
前年度繰越金	385, 924	0
合計	385, 924	0

支出の部	予算	前年度予算との差異	
次年度への繰越金	385, 924	0	注 1
合計	385, 924	0	

注 1:該当する支出がないため。

◇◇

入会申込，住所変更，退会届，会費納入，購読申込
などは下記へご連絡ください。
〒305 - 0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1
国立科学博物館 植物研究部
日本植物分類学会 國府方 吾郎（会計幹事）
Phone: 029-853-8967, Fax: 029-853-8401
E-mail: kaikei@e-jsps.com
会　費：一般会員 7,000 円，学生会員 3,000 円，
団体会員 8,000 円
郵便振替口座番号：00120-9-41247
加入者名：日本植物分類学会

◇◇

令和 5（2023）年 2 月 20 日印刷
令和 5（2023）年 2 月 25 日発行

編集兼　草津市下物町 1091
発行人　滋賀県立琵琶湖博物館
大槻　達郎

発行所　茨城県つくば市天久保 4-1-1
国立科学博物館植物研究部
日本植物分類学会

＊ニュースレターに掲載された記事の著作権は日本植物分類学会が管理いたします。